



いわて医療通信
肝臓の疾患④

肝臓の機能と しくみの再確認

前回までは、肝臓の炎症性疾患について代表的な慢性肝炎とB・C型肝炎について解説していきました。ここでもう一度、肝臓の機能・しくみについて確認しておきたいと思います。

肝臓は肝細胞の集合体によって形成されています。消化などによって得られた栄養分を原料とし、体に必要な物質に加工する工場のような役割を担っている臓器です。

肝臓の機能は大きく3つに分けることが出来ます。

①代謝 食べ物を消化することによって得られた糖・タンパク質・脂肪を無駄にしない

いよう体内で使える形に変えて貯蔵し、必要なときにエネルギーの源として供給しています。つまり、携帯電話などのバッテリーの様なもので、食べ物(充電)がなくてもバッテリー(栄養分)があれば動けると同じことです。

②胆汁の生成・分解 肝臓は汗腺などと同じく分泌も行っており、脂肪の消化吸収を助ける、胆汁などの消化液を産生・分泌しています。

③解毒 皆さん大好きなお酒や普段飲んでいるお薬また、分解で生じた老廃物など身体に有害な物質を分

解し、影響を及ぼさないように無毒化する役割を持っています。

このような働きは、肝臓に障害が起ることによりその機能も影響を受けます。肝臓は本来ある程度の障害を受けても、代償作用の働きで元に戻ることが出来る

ため、少しの障害では症状が現われず『沈黙の臓器』と呼ばれるままです。体の異変に気がついたときには、手遅れになっているケースが多いです。また、障害の強さが一定限度を越えると

いわゆる肝不全という状態に陥ってしまうので大変注意が必要です。

肝不全の具体的な内容は今後記載していきます。治療方法や、肝臓の状態が心配な方は、かかりつけの先生にご相談ください。

岩手医科大学は2017年
創立120周年を迎えます



誠のあゆみ、未来へつなぐ

岩手医科大学